

分野	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当教師
専門分野Ⅱ 小児看護学	小児保健論	1	30	2年次前期	津田 はづき

テキスト(発行所)	小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院)
参考図書・参考資料	随時提示

学習のねらい	子どもの成長・発達と健康の保持増進のための子どもと家族への看護について理解できる。
学習目標	1. 子どもの成長・発達に応じた健康の保持増進のための看護について理解できる。 2. 子どもの日常生活と援助について理解できる。 3. 小児看護に必要な基礎技術を理解し、演習を通して小児看護の実際がイメージできる。

学習スケジュール			
回数	主題	学習内容	履修形態 他
1回	小児保健論講義概要 小児保健の動向	・ガイダンス ・虐待 ・予防接種	講義
2回	子どもの感染症	・学校保健法	講義 グループワーク
3回	子どもの栄養	・子どもにとっての栄養の意義 ・乳児期の栄養	講義
4回	子どもの日常生活と援助	・基本的な生活習慣の獲得 排泄、睡眠、衣服の着脱、清潔など	講義
5回	子どもの日常生活と援助	・基本的な生活習慣の獲得 排泄、睡眠、衣服の着脱、清潔など	講義 グループワーク
6回	子どもの遊び	・子どもの遊びと活動の意義 ・各発達段階における遊びの特徴 ・入院患児の遊びの工夫	講義 グループワーク
7回	子どもを取り巻く環境	・子どもを取り巻く環境 ・子どもの死亡など	講義 グループワーク
8・9回	子どもの安全	・子どもの環境と安全 ・事故防止と安全教育 ・事故の実態と事故防止の実際	京あんしん館見学 レポート課題
10回	子どもの認知	・疾病・障害に対する子どもの反応 ・子どもの疾病・障害に対する家族の反応	講義 グループワーク
11回	小児のアセスメント	・小児のバイタルサインの特徴 ・バイタルサイン測定時のポイント	講義 グループワーク
12回	検査・処置を受ける子どもの看護	・子どもに多い検査・処置(経口与薬、輸液など)	講義 グループワーク
13回	検査・処置を受ける子どもの看護	・子どもに多い検査・処置(腰椎穿刺、骨髄穿刺)	講義 グループワーク
14・15回	検査・処置を受ける子どもの看護	・プレパレーションの実際 ・まとめ	グループ発表 レポート課題

単位認定の方法	1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること 2. 評価の割合:以下の評価方法で60点以上の得点があること 1)筆記試験70点 2)レポート試験 10点 3)パフォーマンス課題 20点 4) 1)から3)の合計が60点以上あること 3.1・2の要件が両方満たされ、単位認定とする
受講上のアドバイス	子どもが健やかに成長・発達をしていくための子どもと家族の援助について講義や演習を通じて学びます。子どもの日常生活や養育の実際について、イメージしながら学習を進めていきましょう。